

私のたからもの

私の大切な小さなたからもの
ロールケース入りの50色の鉛筆

同じ赤でもいろんな赤がある
明るく楽しい赤 暗くて怖い赤

いつも旅先でバックにしまってた
その時の天気で見える景色も違う

同じ緑でもいろんな緑がある
一つのものでなくたくさんあるのがいい

空を見上げて海を見渡して
物思いにふけることも幸せ

同じ青でもいろんな青がある
すみわたる青と 深く重たい青

たくさんある中で一つしかない色
だけどここのたからで使っていない色

いろんな色のせる画用紙と同じで
清らかな白色 かけがえのないもの

大切なもの

夢おいしいひとよ

夢おいしいひとよ 生きてくために
違う道を選んだとしても
あきらめられず 退屈な日々に
別れを告げる 勇気に気づくのか

少しだけでも 近づくために
触れる機会をなんとか増やして
自分の心 確認しながら
行動することためらわないで

夢おいしいひとよ 言葉に出すのが
恥ずかしくて黙ってたとしても
やはりこれしかないことになって
遠回りしても その道ゆくのか

思い通りにならなくても
続けていく気持ち大切に
たとえ何かにつまづいても
進んでいくことやめたりしないで

正しい道 あるわけでもなく
道なき道をみんな進んで
小さな間違いおそらくあるだろう
誰ひとり同じ道はない

それしか見えない

斜め後ろ向く若い女性の絵が
ふと気づくと横向く老婆に

一度そう見えたらそれしか見えない
最初の若い女性が見えない

かぶっていたリボン付きのおしゃれな帽子
ふと気づくと横たわる猫に

一度そう見えたらそれしか見えない
最初のおしゃれ帽子が見えない

左向く茶色のうさぎののびた耳
ふと気づくと右向くアヒルのくちばし

一度そう見えたらそれしか見えない
最初のうさぎが意識の外

おばあさんおじいさんお互い向かい合って
ふと気づくとこちら向く若い男女

一度そう見えたらそれしか見えない
最初の二人がもう見えない

大きな口を持ったくびれたツボはさんで
向かい合って眺める二つの横顔

一度そう見えてもつながりあって
何度でも見直せるものがある

うちよせる波

手に持ったサンダル
鼻緒で痛くなり

陽がかげった海岸
ネイビーのラッシュガード

よせては返す波の音聞きながら
昔の歌口ずさみ足元濡らして

踏みしめた砂が
波に溶けてなくなる

その瞬間の刺激
心地よいマッサージ

思い出す歌のなか
情景がよみがえる

砂に書いた文字が
消えること歌ってた

明日は離れ離れになるさみしさ
その気持ち共感できるこのシチュエーション

時折ふく風が
波ですずしくなる

その瞬間の癒し
疲れも忘れて

メモリアル

WOO WOO WOO

ゆく夏と共に過ごした
今では見えなくなった人

心のどこかでいつもいつでも
何があってもそばにいてくれる

盆の間はさらに近く
いるはずなのに寂しい

過ぎ去った（過ぎ去った日々の）
懐かしい（懐かしい思い出）
よみがえる（今よみがえる）
この歌に（この歌に変えて）

WOO WOO WOO

こうして遺影の前に立ち
流れる時静かに過ぎる

心のどこかでいつもいつでも
目を閉じるだけですぐに出会える

改まる時さらに近く
いるはずなのに侘しい

若かった（若かった日々の）
楽しかった（楽しかった思い出）
よみがえる（今よみがえる）
この歌と（この歌と共に）

過ぎ去った（過ぎ去った日々の）
懐かしい（懐かしい思い出）
よみがえる（今よみがえる）
この歌に（この歌に変えて）

WOO WOO WOO

縁とゆかりと

縁は偶然で不思議なつながり
ゆかりは必然で過去とのつながり
いい時もあれば悪い時もある
けれど断ち切りたくない

つながりなくても自分の 運命だけは
かけがえのない与えてもらえるもの

縁とゆかりと運命も共に
恩の字に変えたい

縁は自分で作れないもの
ゆかりも自分で作れないもの
いいこともあれば悪いこともある
けれど無くしたくない

自分の力で作れる 運命だけは
けれどそれも最後は変えられない

縁とゆかりと運命も共に
恩の字に変えたい

黄色い田んぼ

秋の田のかりほのいおのとまをあらみ
夜露濡れるソデを悲しむのでなく
夜を静かに黙想するような静寂

大事な稲刈りを明日に控えて
泊まり番する昔の人のように
辛いばかりでなく喜びもあったろう

秋の夜 清々しさが
心待ちにつながる時

黄色い田んぼ日差しを受けて輝き
黄色でなくてまさに黄金色になり
その風景は壮大なひとときになる

すこし曇って透明な風が吹いて
トンボの羽時々きらりと輝く
曇った時穏やかに明るいじゅうたん

秋の風 透明さが
心待ちにつながる時

ないないない

60過ぎて楽になるはずが
(60過ぎて楽なはずが
働かないと暮らしてゆけない
(働かないと暮らせない
あと5年いや10年(もっと
頼りになるのは健康だけ

たまには旅行したいけれど
(たまには旅行したいけど
近いところでせいぜい1泊
どこに行くのも(車
泊まりなしではお酒も飲めない

ないないないない何も無い
ないないないないお金ない
ないないないない暇もない
ないないない

休日やりたいことあったはずが
(休日やりたいことあった
早起きするだけすぐに疲れ昼寝
(早起きするだけすぐ昼寝
そのあと買い物(ぶらり
あまり買うものもないけれど

結局大したことできないまま
(結局大したことできない
いつもと同じ夜の寝床につく
(いつも同じ寝床につく
昼寝の分だけ(なんと
余計な睡眠が増えただけ

ないないないない何も無い
ないないないない仕方ない
ないないないないやるせない
ないないない

自由な暮らし望みながら
(自由な暮らし望みながら
毎日何かに縛られ続けてる
(毎日何かに縛られてる
9時5時の勤務(おわって
帰宅して食べて寝るだけ

たまには飲みに行くこともあるけど
(たまには飲みに行くけれど
人の悪口聞いただけで終わる
(人の悪口聞いておわる
体をわざと不調に(体を不調にしないと
付き合いことわるために

ないないないない何も無い
ないないないない忍びない
ないないないない情けない
ないないない
ないないないない何も無い
ないないないないつまらない
ないないないないしょうがない
ないないない

ないないない

夕暮れの中で

新しくできた海岸公園の中を走って
夕暮れ前の海は明るい空に混じって
わたしの心の中も照らして光ってる

夕暮れの中で
ただひたすらに追いかける眩しさ
ベンチに腰かけて遠い山と島々を
黄色く燃える日玉の下に映し出して

この頃の夕暮れは
さみしくなることもなく
わたしの心の中にまとも輝いてる

(あなたが) そばにいるから
(あなたが) そばにいてくれるから

菜の花

何もない道を抜けたら
黄色くまぶしい世界が広がる

見ているだけで嬉しくさせてくれる
陽に映えて美しく風に揺れて暖かく

ひとつでは頼りない菜の花
まとまることで鮮やかな絨毯

ほんのひととき楽しくさせてくれる
5月の青い空にウェイブしながら

もうこのまま生きてゆこうと
思っていたのに
まだまだいいことを求めながら
探していることに気付く

ひとりでは足りない何かが
一緒にいることで満ち足りた気持ちに

ささやかな暮らしの他には何もいらぬ
これまでの全てを整理したはずだった

もう誰にも知られないでと
思っていたのに
まだまだふれあいを求めながら
探していることに気付く

もうこのまま生きてゆこうと
思っていたのに
まだまだいいことを求めながら
探していることに気付く